

3年生道徳授業 「一枚の銀貨」(家族愛)

1.ねらい

家族の見返りを求めない愛に気づき、親を尊敬し親しみの気持ちを持ち、家族みんなで協力し合って温かい家庭を作ろうとする心情を育てる。

2.あらすじ

家族に頼まれたお使いの途中で大切なお金をなくしたことに気づいたハンスは途方に暮れる。そんな彼を見つけて、お母さんは一枚の銀貨を渡して元気づける。

3.授業の様子

【1組】

「お母さんは、どんな気持ちでハンスに銀貨を渡したのか」考えを伝え合い、



家族の愛情の深さについて学びました。子どもたちの優しく温かい気持ちに感動した授業でした。

【子どもたちの考え】

- ・失敗は、誰にもあるから仕方ないよ。ハンスは、子どもなんだから、もう悲しまなくていいよ。
- ・ハンスをこれ以上、心配させたり悲しませたりしたくない。もうこれ以上、自分を責めなくていいよ。
- ・ハンスは悪くないよ。わざとではないんだから…。もう泣かないで。大丈夫だよ。
- ・お父さんやお母さんの気持ちを考えてくれてありがとう。家のことは心配しないで、大丈夫だよ。
- ・わざとではないのだからいいよ。ハンスのことを信じているよ。分かっているよ。大丈夫だよ。
- ・「何も心配いらないよ」という優しい気持ちで渡した

【2組】

子どもたち一人一人が「お母さんの気持ち」を考え、家族愛について自分なりの考え



を持ちました。家族の温かい思いやりに気づくことができた授業でした。

【子どもたちの考え】

- ・最後まで諦めずに買い物にいついてくれてありがとう。
- ・お金のことはなにも気にする必要ないからおつかいの続きに行っておいで。まだ間に合うから。いろいろがんばったんだから泣かないで。
- ・次に、気をつければいいんだよ。人間なんだから失敗は必ずあるよ。
- ・心配しているが、がんばってほしい気持ち。
- ・買いにいこうとしてくれてありがとう。今度は、一緒にいこうね。さあ、まだ間に合うから行っておいで。
- ・家族のために買い物に行ってくれてありがとね。わざとじゃないから泣かなくていいんだよ。

4.お家の方へ

本資料は、お父さんが夜遅くまで働いて得てくれた二枚の銀貨のうちの大切な一枚を落としてしまったハンスの手に、お母さんが黙って一枚の銀貨を握らせてくれたという家族の無償の愛が描かれているお話です。

家庭は、生活の基盤であり心安らく憩いの場所です。ただ、毎日のあたりまえの暮らしの中では、家族に対し、支えられて生きているという感謝の気持ちを忘れがちです。そこで、親や家族が自分を育てるために無償の愛としてどのような心配りをし、どのようなことをしてくれているのか気づかせるとともに、自分自身も家族の一員として家族や家庭を愛する心を持ち、温かい家庭をつくろうとする気持ちを持ってほしいという願いを込め、子どもたちと考えを深め合いました。ぜひ、授業の内容や考えたことについて、話題にしてください。よろしく申し上げます。